

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール」
- 2 ね ら い これからボランティア活動をはじめの方々を対象に、ボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎知識や技能を習得させることを事業の目的とする。
- 3 期 日 令和5年5月13日（土）、5月20日（土）～21日（日） 3日間
- 4 場 所 沖縄県立糸満青年の家（13日） 国立沖縄青少年交流の家（20日～21日）
- 5 募集定員 30名程度
- 6 参加人数 36名
- 7 参加者内訳 高校生20名 大学生16名
- 8 講 師 張本 文昭 氏（沖縄県立芸術大学全学教育センター 教授）
木島 悠太郎 氏（一般社団法人 JAPAN WATER PATROL）
山里 望 氏（国立沖縄青少年交流の家 所長）
- 9 実施プログラム

5月13日	潮汐:小潮 満潮12:25(156cm) 干潮7:06(110cm)											
	12:30 13:30 15:00 17:00											
					受付	開校式	講義①		講義②		事務連絡	
5月20日	潮汐:大潮 満潮19:38(189cm) 干潮13:06(3cm)											
	10:00 11:45 13:00 13:30 16:00 18:00 19:30 21:00											
	9:00から乗船開始 (とまりんターミナル)		フェリー	移動	弁当 着替え	テント 設営	海洋研修		シャワー	野外炊事	夕食・ 片付	交流会
5月21日	潮汐:大潮 満潮20:17(185cm) 干潮13:41(4cm)										〔講義内容〕 講義① 青少年教育 講義② 青少年教育施設におけるボランティア活動 講義③ 安全管理 講義④ ボランティア活動の意義 講義⑤ 青少年教育施設の現状と運営	
	7:30 8:30 11:30 12:30 14:00 15:00 16:00											
	起床 テント底上げ	朝食 テント撤収	講義・演習③		弁当	講義④		講義⑤	閉校式	移動		

10 事業の様子



青少年教育



テント設営



スノーケリング



野外炊事



野外炊事②



先輩ボラによる交流会の進行



交流会



安全管理



ボランティアの意義

11 参加者の声（アンケートより）

- ・いつも自立を支援してくれる感じが良かった。（全体を通して）
- ・自分や相手のためになる講義だった。（プログラムについて）
- ・親切に話しかけてくれるし、対応が丁寧だった。（職員の対応について）
- ・丁寧な指導でとても分かりやすく楽しく講義を受けることができた。（青少年教育）
- ・実際に活動している先輩からの話が聞けて良かった。（青少年教育施設におけるボランティア）
- ・実際に体験することでルールや注意事項などの重要性を理解することが出来た。（海洋研修）
- ・思わぬところで時間がかかったりしていたので、そういったところにボランティアとしてサポートに入ろうと思った。（野外炊事）
- ・学校では学ぶ機会がないのですごく大事な体験となった。（安全管理）
- ・対応をみんなで考える中で意外な発見もあり楽しかった。（ボランティア活動の意義）
- ・動画の「とらわれるな」というメッセージの説得力がすごかった。（青少年教育施設の現状と運営）

12 担当者所見

（1）成果

- ・今年度は、2週にまたいでの実施としたことにより、プログラムにゆとりが生まれた。テント泊にしたことで参加者と会話する機会が増えた。
- ・事業2日目に先輩ボランティアの進行による交流会を実施することができた。ボランティア同士や職員との交流の場を持てたことは、今後の事業に参加しやすい雰囲気を作ることにつながったように感じる。
- ・「ボランティアの意義」の講義ではグループ討議を行ったが、どの班も円滑な意見交換が行われ、その後の共有の場面でも進んで発表していた。自分だけでは生まれない新たな気づきやアイデアが出てきたとのコメントも見られた。
- ・前年度から他事業に関わりのあった講師に広報の協力を依頼したことで参加希望者の増加が見られた。大学生のボランティアを中心にさらなる活動の活性化を図りたい。

（2）課題

- ・昨年、今年と少しずつ新規で事業へ参加するボランティアが増加している。しかし、本事業後一度も事業に参加していないボランティアも見られる。事業の持ち方の工夫、交流会の実施など新規のボランティアが参加しやすい手立てを考えていきたい。
- ・職員と一緒に事業に関わっていくことのできるようボランティアを育てていきたい。